

今号の記事

いま地域医療が危ない…2面/主張・仲間づくり…3面/北から南から…4・5面/みんなのひろば…6面/年金者文芸・パズル…7面/わが支部/わが町/旅・たび(徳島県本部)…8面

年金者 しんぶん

第435号 2026年3月15日(日)
(通巻第634号)

全日本年金者組合中央本部

〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人 岩崎 勇 月刊1部100円(組合費を含む)
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

2026.2.24 組合員数95,489人

連絡先 電話03(5978)2751

FAX03(5978)2777

honbu@nenkinsha-u.org

ホームページ/年金者組合で検索

会議は近況報告でスタート

「年金者しんぶん」読むのがあたり前に

徳島県本部 小松島支部



支部委員のみなさんと松田文雄委員長(前列左)

「オリンピックのテレビ放送を楽しんでいます」
「部屋で転んで足の指4本を骨折してしまっ
た」
「メンコやお手玉など、昔の遊び研修会に参加しておもしろかった」
出席者の近況報告で始まった徳島県本部の小松

島支部委員会。話の途中で、質問が出たり、笑いが起きたり。和やかな雰囲気です。会議は進みます。
会議は明るくにぎやかに
支部委員は女性5人と男性3人。この日は男性1人が欠席。明るくにぎやかで、堅苦しい雰囲気



話が弾む支部委員会



小松島市内

はなりません。まるでおしゃべり会のような近況報告は30分続きました。月1回開かれる会議で、いつも近況報告からスタート。柳本愛子支部長の司会で進行。全員が発言しやすい雰囲気を感じられます。
組合員は現在43人ですが、全員が年金者しんぶんを読んでいることには驚きました。
役員が手分けして、組合員に毎月手渡しし、組合費の集金も行います。組合員同士のつながりができています。
会議に参加した県本部の松田文雄委員長は、春の月間で4人以上迎えてほしいと訴えました。みんなで対象者をあげて当たることを決めました。
つながりが大事で大切
支部は数年前まで停滞。一人ひとりの組合員を訪ねて25人ぐらいから再スタートしました。
再建後に行なわれたイベントで好評だった一つが誕生会。手作りのプレ

ゼントがあったり、ケーキが出たり。ハッピーバースデーを歌いながら、一人ひとりをお祝い。薩摩琵琶の演奏やゲームなどもあり豪華な誕生会となりました。
ただ年4回の実施に力がとられて他の取り組みが弱まったことから6月と12月の年2回開催になりました。
JR線牟岐線の旅も好評で20人が参加。「JR線牟岐線と地域を守る」
今後の取り組みでは、
「たのしい高齢者の会」その通りの実践なので、支部長の決意を聞くのは野暮なので控えました。(家城経二)



人気のハモカツ丼

鉄旅パート2、サクラやフジ、バラボタンを見に行く案が出されました。話し合いの結果、4月に花見を行なうことが決まりました。
加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度の創設を求める陳情についても、市と協議を継続することにしています。

この日はまた、気楽におしゃべりができる場所が欲しいね、との意見が出され、検討することになりました。
レジメのタイトルは「たのしい高齢者の会」。

風雪

現在98歳、暉峻淑子さんの講演を聞く機会があった。SN